

JForest

森林組合だより

令和元年 9月1日

発行

第 125 号



令和元年度 連絡員会議

本荘由利森林組合

由利本荘市水林381

TEL 0184-24-4141(代) FAX 0184-24-4143

HP <http://www.honmori.com/> メール honmori@trad.ocn.ne.jp

令和元年度 連絡員会議開催



7月3日（水）西目のシーガルを会場に令和元年度連絡員会議を開催しました。
今年度は連絡員130名、役員21名のほか、来賓として森づくり推進課藤田課長、並びに、佐藤班長、春日班長、小玉班長のご出席をいただきました。
会議は小松組合長の挨拶に始まり、日頃のご苦労とご協力に対してお礼を申し上げるとともに、今後とも引き続き組合員との重要な連絡役を務めて下さるようお願いしました。また組合からは次の事項について報告しました。

- 一、指導・総務事業関係
 - ・賦課金のお知らせ
 - ・年間行事計画
 - ・組合員異動手続き
- 二、林産販売・丸棒加工事業関係
 - ・木材価格の推移
 - ・西目センター共販市況
- 三、造林事業関係
 - ・令和元年度造林補助事業について
- 四、製材・バイオマス事業関係
 - ・平成30年度西目製材所稼働状況
 - ・平成30年度バイオマス稼働状況

連絡員会議では連絡員の皆さまから多数ご質問がありましたので、主なものを掲載させていただきます。

《仁賀保地区 須田氏》

Q. 森林環境税等の森林関連法が施行されたが、山林所有者への利益の還元はどうか。
A.（森づくり推進課）まだスタートしたばかりの施策なので、詰めの内容がまだ定まっていない状況。所有者の意向調査や市町村と協議を行って、所有者にとって一番望ましい形での活用を目指している。



《由利地区 佐藤氏》

Q. 山の日という祝日が制定されたが、それに伴って国民に山の良さをPRするともに、山の価値を守るような政策を考えてほしい。
A.（森づくり推進課）山の日が制定されたことでPRの方法を考えなければならぬと感じている。今年度からスタートした森林環境譲与税はこのようなPR事業にも充てることが出来るので自治体と協議して進めていきたい。

《東由利地区 安倍氏》

Q. 現在は木を売ってもお金にならず、経費ばかりかかるので売らないという所有者が非常に多いと感じている。所有者に利益が残るような政策を進めて欲しい。
A. 造林補助事業等において秋田県森林組合連合会でも所有者の負担が少なくなるように関係機関に働きかけているのでご理解いただきたい。

（森づくり推進課）確かに末端の所有者まで利益が行き届きにくい現状は理解している。現状では原木などの価値を上げることが難しいが、経費を下げて利幅を広げるといふ形で所有者の手に多く残るような施策を講じている。例えば再造林において、低コスト化を図った場合は、補助対象とすることなどである。

《大内地区 中村氏》

Q. この連絡員会議の主たる目的はなにか。
A. 組合運営を円滑にすることを目的としている。主な協議事項は、組合員の意見・要望などについて事業計画等に反映することである。

第25回 労働安全衛生大会開催

第25回労働安全衛生大会が7月12日（金）に由利の善隣館を会場に開催されました。毎年開催されるこの大会は、安全に対する意識をより高めるために、職員・技能班を対象に開かれています。

組合長の挨拶に続き、優良運転者への表彰が行われ、大会最後には、代表職員が安全宣言を行い、労働災害ゼロを誓いました。



講師：佐々木貴規氏

安全講話では、本荘労働基準監督署 厚生労働技官 佐々木貴規氏を講師としてお招きし、「林業における労働災害防止について」と題し、講演いただきました。過去の災害件数等の具体的なデータを取り上げながらお話しいただき、最後の、そもそも「安全」は存在しない。「危険」が常に存在する。という言葉に肝に銘じ、職員一丸となり、労働災害ゼロを目指してまいります。

優良運転者表彰

■無事故無違反

35年	猪 股 映 子	（総務課職員）
30年	岡 本 真貴子	（造林課職員）
15年	井 島 美 明	（造林課技能職員）
	高 野 良太郎	（林販課技能職員）
10年	佐 藤 新一郎	（仁賀保支所職員）



【大会宣言】 林産班 村上駿

私達は、安全管理の重要性及び労働災害防止活動を確認し、本大会の開催を契機に無事故・無災害の決意を新たに、労働災害防止対策を全力で取り組む事をここに宣言致します。



新たな時代に PDCA みんなで築こうゼロ災職場

本荘由利森林組合林業研究会 第22回通常総会及び視察研修

7月30日～31日、総会及び視察研修会を開催し10名の方々に参加いただきました。視察内容は次の通りです。

- ☆上大内沢自然観察教育林（上小阿仁村）
- 林野庁選定森の巨人たち百選コブ杉
- ☆有限会社 伊東農園（北秋田市）
- コンテナ苗の製造・販売
- ☆株式会社 大館工芸社（大館市）
- 曲げわっぱ製品の製造・販売
- ☆北秋容器 株式会社（大館市）
- 木質ペレット製造・販売

今年度は北秋方面で森林資源の活用方法に焦点を当て、視察して参りました。また、コンテナ苗の生産に力を入れている企業を視察し、森林環境税及び森林環境譲与税の施行により経費の削減が推し進められている中で植栽作業の効率化についてご説明いただきました。

大館市では伝統工芸品の曲げわっぱの製造現場を見学し、受け継がれている職人の技術に感銘しつつも、慢性的な素材不足に苦慮しているとお話を伺い、改めて我々が山林の資源を守っていくという大きな使命を託されているのだと実感いたしました。



（株）大館工芸社



（有）伊東農園 広葉樹苗木畑



上大内沢自然観察教育林

第25回 本荘由利森林組合造林コンクール開催要領

1. 趣 旨

この造林コンクールは、健全な活力ある優良林分を造成し、良質材生産を志向した保育作業の合理化と技術の向上を図り、由利地方民有林の森林整備事業の推進と実績を高めるために開催し、合わせて所得向上に貢献することを目的とする。

2. 名 称 本荘由利森林組合造林コンクール

3. 主 催 本荘由利森林組合

4. 実施期間 申込：令和元年 9 月 2 日～令和元年10月10日 審査：令和元年11月 1 日～令和元年11月20日

5. 実施方法

① 参加資格

本荘由利森林組合組合員とする。(旧由利地方森林組合及び本荘由利森林組合主催の造林コンクールで入賞した林分は同一部門での申し込みはできません。)

② 参加林分の基準

※平成30年～令和元年度中に施業を実施した林分に限る。

A 人工林

(イ) 樹 種……スギ

(ロ) 面 積……0.10ha以上

(ハ) 林 齢……植栽後 7 年生以上

B 育成天然林

(イ) 樹 種……広葉樹

(ロ) 面 積……0.10ha以上

(ハ) 林 齢……25年生以上

③ 参加部門

幼齢林の部…… 7 年生～ 9 年生

枝打ちの部……11年生～30年生

保育間伐の部……21年生以上

収穫間伐の部……21年生以上

育成天然林の部……25年生以上

④ 参加申込

各支所に備え付けの参加申込用紙に記入の上、各支所経由で申込むものとする。

⑤ 審査方法

審査委員長は、由利地域振興局農林部森づくり推進課長に依頼し、森づくり推進委員及び森林組合職員をもって審査するものとする。

⑥ 審査基準 別に定める。

⑦ 表 彰

組合長は、審査委員長からの審査結果報告に基づき入賞者を決定し、次により表彰するものとする。

・最優秀賞 (由利地域振興局長賞)

・優 秀 賞 (由利森林管理署長賞)

・優 良 賞 (県森連会長賞)

・入 賞 (森林組合長賞)

・奨 励 賞 (森林組合長賞)

今後の行事予定

●森林組合まつり……10月20日(日)

●造林コンクール申込期間……9月2日(月)～10月10日(木)



材木の品種改良最前線

今号からは、近年の様々な林業技術の最前線の状況についてご紹介いたします。

1 回目は、森林・林業の根幹である品種改良（材木育種）の最前線「エリートツリー」や「早生樹」等に関する情報です。

1. これまでの方法

- ・昭和30年頃、全国で民有林の中からスギやヒノキ、マツ類等で成長、形質（通直性）、耐病性などの観点から優れた個体（「精英樹」という）を選抜し、現在、各都道府県の材木育種場で増殖されています。
全国で、9,100個体、本県では、スギ70、アカマツ22、クロマツ14を選抜し、秋田市河辺の県林業研究研修センターに集植されており、現在、スギなどの種子は、100%センターの採種園から生産されています。
 - ・これまでの、材木の品種改良は、これら精英樹クローンを山地植栽した検定林のデータに基づき、成長性や根曲がり抵抗性などの様々な品種改良がなされてきました。
しかしながら、検定結果が出るまでは、多くの時間を要するのが難点でした。
- ※精英樹クローンとは：さし木などで増殖された親（精英樹）の遺伝子100%を引き継ぐ個体や集団のこと。

2. 近年の方法（エリートツリーの開発）

- ・近年は、精英樹の特性等の分析データに基づき、優れた精英樹同士を人工交配して、より優れた精英樹「エリートツリー」を開発する方法が主流となっています。開発に当たっては、成長性を最も重視するとともに、剛性（曲げ強度）や少花粉性なども選抜の要因に加えられています。
 - ・成長性（特に初期成長）を重視する理由は、林業における時間軸の短縮、収穫材積の増大、下刈りなど、育林の労務やコストの低減を目標としています。
 - ・近年は、交配する個体の遺伝子解析技術が進歩していることや、精英樹データの解析技術も大幅に高まったことなどから、これまでは、品種改良期間に1回転20年も要していましたが、5年程度で結果を得ることが可能となり、材木育種のスピードアップや多様な品種改良が進むことが期待されています。
- その結果、スギやヒノキにおいて、通常の精英樹の1.5～2.0倍の成長を示す個体や、年成長量の極めて大きい個体など、全国で800以上のエリートツリーが開発されています。

3. 早生樹について

- ・国では、エリートツリーとともに開発を強化しているのが「早生樹」といわれる成長の早い樹木です。今、注目されているのが、原産国が台湾や中国南部のセンダンやコウヨウザンと呼ばれる樹種です。これらは、成長が早く、材質的にも優れていることから、現在、九州や西日本を中心に山地植栽試験が盛んに行われています。
特にコウヨウザンは、伐採しても萌芽更新するため、再造林経費が低減されるなど関係者の関心が高くなっています。
しかしながら、一般的には、両者の大敵は、センダンは寒さ、コウヨウザンは獣害（ウサギ、シカ等）といわれています。
- ・研究機関の情報によると、これらの樹種は、原産地が温暖な地域であることなどから、本県においては、センダンはかなり困難であるが、コウヨウザンは生育する可能性があるという見解です。県の方針によれば、秋田県においては、これらに替わる樹種として成長が早くスギの不適地（高標高、尾根筋等）でも成林可能なカラマツを推奨しています。
カラマツは、近年、合板などにおいて需要が拡大するとともに原木単価も上昇している状況です。

木材市況情報 (令和元年)

単位：円、上段（石当り価格）
下段 m 当り 価格

			7月2日			8月2日		
樹 種	材 長 m	径 級 cm	本荘由利木材流通センター			本荘由利木材流通センター		
			高 値	安 値	平均価格	高 値	安 値	平均価格
ス ギ	3.65	14下			(2, 280) 8, 208	(2, 500) 9, 003	(2, 259) 8, 135	(2, 344) 8, 441
		16～22	(2, 955) 10, 640	(2, 883) 10, 382	(2, 936) 10, 570	(3, 009) 10, 835	(2, 836) 10, 211	(2, 901) 10, 446
		24～34	(3, 603) 12, 972	(3, 295) 11, 864	(3,407) 12, 266	(3, 556) 12, 803	(3, 298) 11, 875	(3, 473) 12, 505
出材量・販売量・販売率			1,247m³(4,489石)・1,244m³(4,478石)・99％			745m³(2,682石)・745m³(2,682石)・100％		
7月：常連の量産工場や山形県勢に加え、県北、岩手、新潟県からの参加もあり、応札枚数も最多で5枚を集め、単価もやや強含み。一本並びの4本を除けば完売。 8月：常連の量産工場、県北の量産工場、山形、新潟県勢と地元勢の参加により、旺盛な引き合いで完売。材質により価格差もあったが、横バイからやや強含みの推移。								

林業大学校生インターンシップ

7月から9月末までの期間、秋田林業大学校の生徒4名が参加しインターンシップ研修（職業体験）を行っております。

主に造林課の現場で測量や下刈り等の作業をしていただきました。学校での実習と実際の現場作業の違いに苦労する場面もあったようですが、下刈り作業については我々職員の想像以上に熟達したものでした。

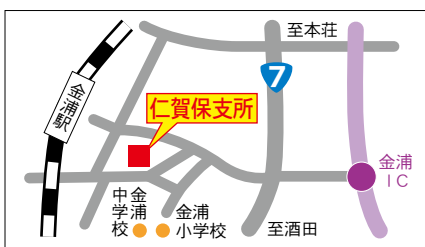
後半には職員の指示に従うだけでなく、どのような段取りで進めれば効率よく、かつ安全に作業ができるかも考えながら行動していたとのこと、将来有望な林業技能者が増えたことを嬉しく感じました。

まだまだ泥臭いイメージのある林業ですが、最近では女性技能者も増えており、今回のインターンにも女性が1名参加していました。この調子で男女問わず林業業界に加わっていただき、業界全体の活性化につながればと思っております。

総務課からのお願い

賦課金納入時期が過ぎております。

未納の方は早急に納入をお願いいたします。
ご不明な点は、森林組合各支所へお問い合わせください。



【新住所】〒018-0311
にかほ市金浦字花潟93-1
にかほ市役所 金浦庁舎 2階
TEL：0184-38-4546
FAX：0184-38-4547



仁賀保支所 移転のお知らせ
このたび、仁賀保支所は、令和元年7月31日（水）、次の場所に移転となりました。